

雨庭パートナーシップ準備会立ちあげました

2022年9月9日 雨庭パートナーシップ2030準備会を立ちあげました。

- 熊本県内に **2030年までに2030箇所の雨庭**を整備することを目標に、産学官民が連携した任意団体として「**雨庭2030 by 2030パートナーシップ**」を設立します。
- **雨庭は小さな窪地**ですが、洪水の抑制、地下水涵養、景観の保全、郷土植物の保全など多様な機能を持った空間で、各種団体や住民それぞれが取り組むことによって、安全で美しい熊本づくりに貢献することができます。
- ここでいう「パートナーシップ」とは、組織や市民が**緩やかに連携し**、それぞれが**出来る範囲**で互いに協力しながら**目標を達成するためのチーム**です。
- 義務やノルマによるのではなく、**自発的に雨庭の整備と普及に貢献**するために、2023年4月1日の設立を目指しています。

雨庭：rain garden, バイオスウェール（溝）、屋上緑化、プランターボックスなど、雨水処理のためのグリーンインフラの総称です

やること

- ✓ 雨庭に関する科学的知見の提供
- ✓ 雨庭に関する知識の提供・共有（雨庭教室や勉強会の開催）
- ✓ 雨庭整備に関するガイドラインなどの参考資料の提供
- ✓ 補助金や植物の提供などの情報
- ✓ 雨庭づくりへのボランティアスタッフの参加
- ✓ 雨庭の実例に関する情報提供
- ✓ 雨庭の認定（熊本県内で何番目の雨庭かの認定）
- ✓ 情報提供のためのホームページの開設

雨庭パートナーシップ準備会事務局：熊本県立大学 地域共創拠点運営機構

参加団体

環境省九州地方環境事務所、国土交通省八代河川国道事務所、熊本県、熊本市、肥後水とみどりの愛護基金

肥後銀行、テレビ熊本、熊本シティエフエム、東武園緑化、熊本トヨタ自動車株式会社、フクユウ緑地

熊本県立大学、熊本大学、九州大学、南陵高校

Myメッセージ

流域治水は流域のすべての関係者が関わる治水とされますが、多くの関係者が関わる土地でどのように進めるのが課題となっています。

ここでのパートナーシップとは産学官民が連携し、それぞれが自主的に目標達成するためのチームです。**目標共有、連携、自主、できる範囲**がキーワードですが、これまで、このような取り組みは日本でほとんど行われておらず、壮大な社会実験であると思います。準備会ではありますが、多くの団体が参加してくれました。

4月までに、参加団体の倍増を目指していますが、この進め方自体がとてもユニークで新しいものと考えています。

雨庭は、グランド、住宅、公共施設、駐車場などで設置可能で、人工的な施設の流出抑制対策として期待されます。そのため、関係者は多く、それぞれの施設への自主的な導入が期待されます。



今日のスクープ

雨庭（あめにわ）の効果に関する最新情報

熊本県立大学雨庭

雨庭の大きさ
広さ35㎡（8m×2.6m）
深さ0.6m

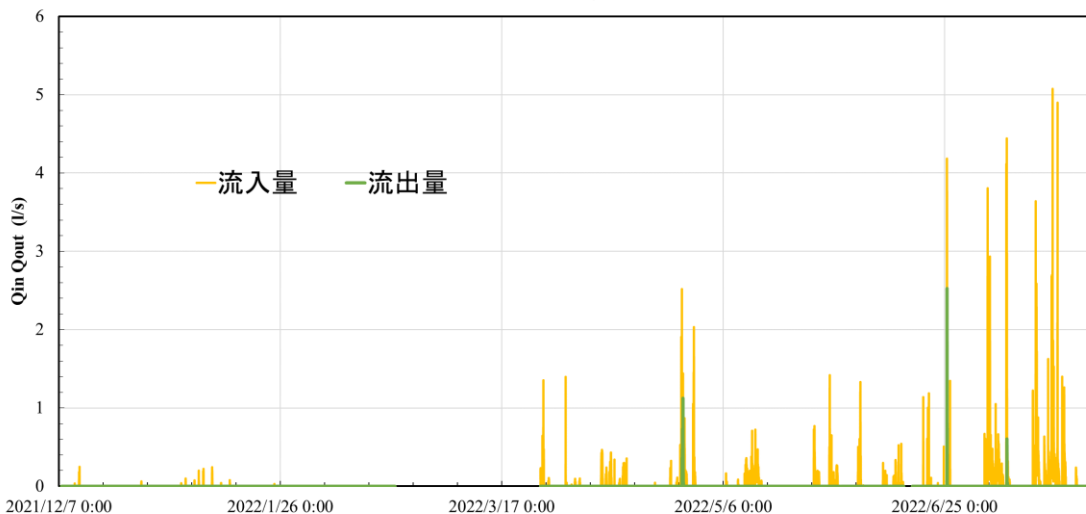
集水範囲
体育館の屋根178㎡に降った雨を雨どいから集めている

工事期間
1週間程度

費用
約50万円（重機使用料、植栽込込み）



流出入変化



九州大学作成 コピー不可

要点

2021年11月から2022年7月のデータが九大チームによって分析された

雨庭への流入量 349 ㎡
雨庭からの流出 11 ㎡
97%は地下浸透

流出した降雨は3回のみ

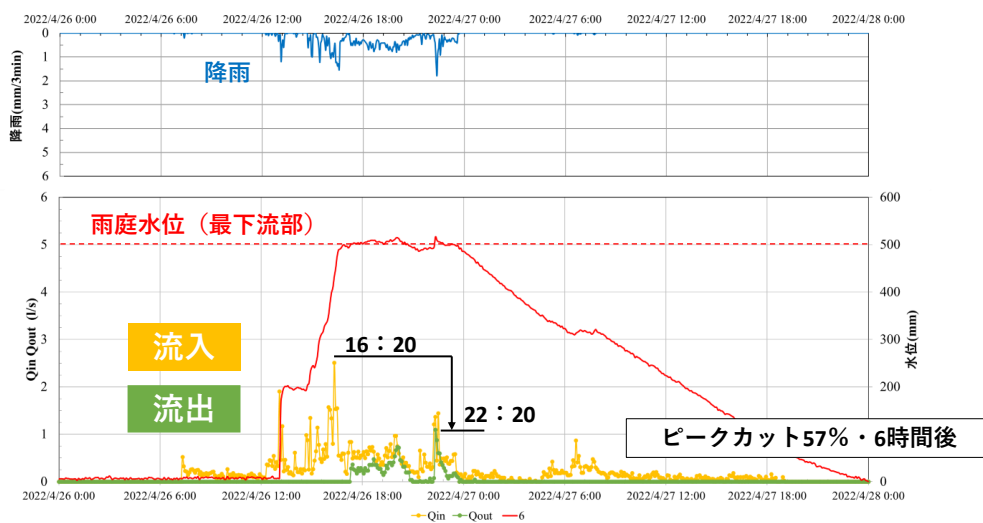
7月後半の降雨では流出は生じていないが、その理由は調査中

- ① 最大の流出量を示したのは、4/26～28日の降雨、流入量33㎡に対して6㎡流出
- ② 最大の流出率を示したのは、6/25日の短時間の集中降雨、流入量7.1㎡に対して4.5㎡流出、ピーク流量40%カット、流出遅れ36分



① 2022年4月26日～28日

総降雨 78.6mm 雨庭への流入量 Q_{in} 33.33 m^3
時間最大 15.5mm 雨庭からの流出量 Q_{out} 5.90 m^3 期間中の流出率18%



九州大学作成 コピー不可

降雨①

この雨は比較的長く、時間最大雨量もそれほど大きくない。

赤いラインは雨庭の水位を示している。雨庭の出口の高さ 500mm (点線) を超えると、流出が始まる。

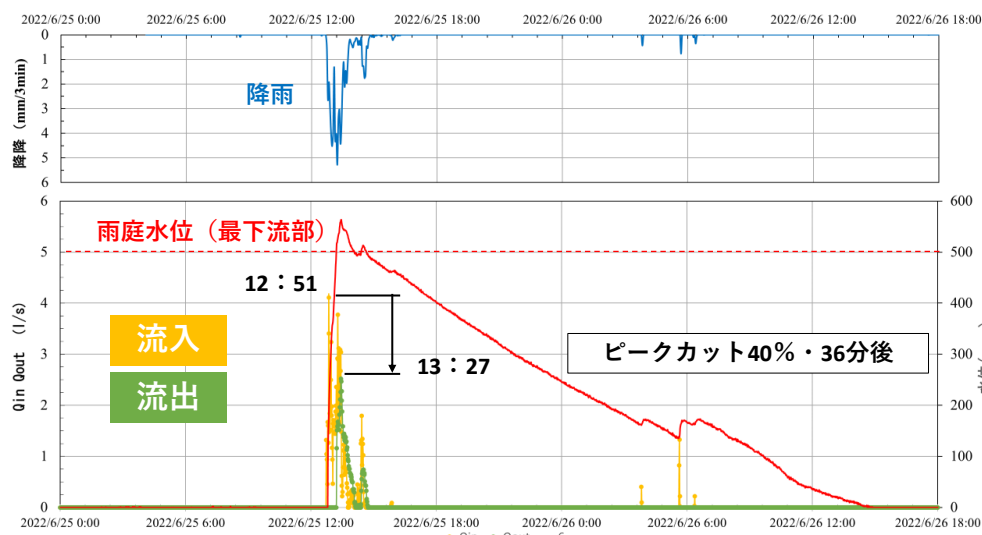
前半の降雨では雨庭の水位が上昇するのみで、流出は発生していない。

雨庭の水位が出口の高さを超える 18:00 ごろより流出が始まり、22:00 に流出がピークとなる。ピークの遅れは 6 時間、ピークカットは 57% となっている。

降雨後ゆるやかに水位が下がるのは浸透のためである。

② 2022年6月25日～27日

総降雨 74.2mm 雨庭への流入量 Q_{in} 7.08 m^3
時間最大 45.2mm 雨庭からの流出量 Q_{out} 4.52 m^3 期間中の流出率64%



九州大学作成 コピー不可

降雨②

この雨は短時間の時間最大雨量 45.2 mm という豪雨である。

強い雨の場合、雨庭の水位はすぐに上昇し、雨庭からの流出がはじまる。

このような集中豪雨でも流出遅れが発生しており、ピークカットも 40% とまずまずの効果である。

編集後記

初回は雨庭特集です。

パートナーシップという進め方で雨庭が普及していくのか？これからは楽しみです。準備会のオープニングでは企業の方や高校生から熱い思いが語られました。結構進むのではという感じがしました。

流域全体での治水の進め方として、**パートナーシップ方式**は面白い取り組みになるのだろうと期待しています。

県立大学の雨庭は体育館の横のグラウンドに設置したため、グラウンドと体育館の整備の時に地盤が固められており、浸透能が1時間に20mmから30mmと小さく、頭を悩ませていましたが、7か月間のデータを見ると、驚くべき結果となりました。浸透総量が極めて大きいですね。雨庭は地下水涵養に非常に大きな効果を発揮することがわかります。

時間雨量 45mm の時にもピーク流量で 40% の流出抑制とかなりの値を示しました。九州大学の田浦さんと今年の冬場に浸透能を向上させるための改良を行おうと話合っていますので、来年にはその効果のお話ができるかと思っています。

最新の情報が含まれることから、著作権にはご注意ください。コピー不可のものは再利用できません。

研究途中なので見解や情報の修正が行われることがあります。

緑の流域治水の「緑」と「流」をくっつけて Midoryu, Midoryu ニュースをお届けします。

このニュースは「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点のプロジェクトリーダーである島谷が私的に伝えるニュースです。時間があるときや、何か面白いことがあった時、何か思いついたときに不定期に発行します。次回が出るかは不明です。

発行人 島谷幸宏